

就職活動本番 春期休暇の有効活用が成功への鍵！



企業の人事担当者との「パネルディスカッション」



就職合宿での「実習」風景



就職課では随時、学生の個人相談に応じている

として「就職ノート」の情報をPCで整理・保存する場合、情報を更新した時はFDなどに定期的にバックアップすることも忘れないように。

2004年度3月卒業予定者の新卒採用については、厳しい経済環境が続いているものの、企業側の採用意欲は若干、回復基調にあると言える。この背景には次のような要因が考えられる。①本年度学生の採用活動において学生の質を追求した結果、採用予定数を確保できなかった企業の増加、②新規採用は景気や業績に左右されず安定的に確保したいという企業スタンス、などである。

しかしながら、新卒学生の就職環境はここ数年、ますます厳しい状況となっていることには変わりはない。就職課では、このような状況の中、春期休暇中における就職活動の重要性を訴えている。スタートにあたり次に挙げる要点を参考に効果的な行動に励んでいただきたい。

要点1 情報整理

データを記録し集積する「就職ノート」を必ず作成する。調べ集めた情報も、それを集中管理しておかなければ作業効率には上がらない。春期休暇以降の就職活動は時間への対応が要求される。収集した情報の整理が有効な就職活動をする上でポイントとなる。

“就職ノート”で押さえる項目は、大きく分けると以下の3点。

- ①活動スケジュール(エントリー・セミナー・面接など)
- ②企業情報(企業研究で集めた情報、企業概要など)
- ③提出書類の控(履修書・エントリーシートなど)

“就職ノート”に決まったフォームはなく、この3点の情報が混乱なく、速やかに確認できるような形で工夫してみてください。なお、注意点として「就職ノート」の情報をPCで整理・保存する場合、情報を更新した時はFDなどに定期的にバックアップすることも忘れないように。

要点2 エントリー

エントリーは、ほとんどの企業がWeb上からのスタートとなる。一部電話、葉書並びにセミナー(個別・合同)参加からスタートするものなど対応に違いはあるものの、遅くとも2月中旬までには、ある程度のエントリーを終了させておく必要がある。この時期にエントリーされていないと、後々の選考対象から漏れることにもなりかねない。今後の就職活動への可能性を確保しておくためにも、少しでも興味を持てる企業にはエントリーをしておく必要がある。

要点3 セミナー(説明会)

2月に入ると個別・合同を問わず、各地で会社セミナーが開催される。2月の予定表は企業セミナーへの参加スケジュールでいっぱいにするつもりで、興味を持った企業には積極的に参加すること。エントリー同様、企業セミナーへの参加が、その後の選考に進むための条件としている企業がほとんどである。更に、志望度の高い企業については、なるべく開催時期の早いセミナーに参加することが肝要である。「何も下調べもしないで、とにかく早く参加する」では困るが、採用担当者の気持ちとしては「早い時期でのセミナー参加者＝志望の度合いが高い」となる。実際、企業採用担当者は、「早い時期でのセミナーに参加する学生の意識は高い」と評価している。また、注意してもらいたい点は、企業セミナーは採用試験の第1関門であることを忘れないでほしい。採用担当者は、学生のセミナーへの参加態度を通じて、意欲・自主性・問題意識などを判断している。友人と連れ立って会場の目立たないところに陣取り、話を聞くといったことではまったく評価されない。更に、参加に当たっては最低限次の事項に注意してほしい。

- 遅刻厳禁(遅くとも30分前には会場に到着)
- 無断欠勤厳禁(万が一都合が悪くなった場合は、事前に電話でキャンセル又は日程の変更を申し出る)
- 会場周辺でのマナーに注意(喫煙・携帯電話<電源OFF>・大声での雑談・挨拶の励行など)
- 会場ではできるだけ前列中央に着席し、必ずメモを用意
- 質問は積極的に(資料等で確認できる質問は逆効果)

「常に見られ、評価されている」という意識を持ち、緊張感を持続する。

要点4 筆記試験

採用試験への対応として、筆記試験への対応も忘れてはならない。基礎学力は採用

の前提条件となる。つまり、筆記試験は内定者の知的レベルを維持するために、採用試験の初期段階で“足切り”としてほとんどの企業が導入していると考えてほしい。試験科目としては、一般常識・時事、英語、適性、小論文が一般的である。一般常識・時事、英語などの試験レベルはさほど高くない企業が多く、忘れていた事柄が多いのではないだろうか。有効な対策としては、市販の問題集を購入し、取り組むことが挙げられる。また、SPIの問題集には必ず取り組んでもらいたい。年内に実施した模擬試験の結果から見ると、非言語分野(数学)を苦手とする学生が多いようである。SPIの数学は問題の癖と解法のコツをつかむ事で、回答のスピードと正解率は、ある程度上がるはずである。

要点5 面接試験

採用選考の要は「面接」であることは変わりなく、これまで以上に面接に力を入れる企業が増加している。その形態も個人面接だけにとどまらず、グループ面接・グループディスカッション・プレゼンテーションなど多様化してきているが、いずれの場合も、会話を通じて相手(企業)を理解し、自分も理解してもらうことが大切となる。では、採用担当者は面接を通じて、学生のどこをチェックしているのか。意外に思うかもしれないが、重視している項目のベスト3は「人柄」「今後の可能性(ポテンシャル)」「会社(仕事)への熱意」となっている。面接試験になると、どうしても自分を良く見せたい一心で、HOW TO本に頼り、テクニクに走る学生が見受けられるが、マニュアル化されたものでは「人柄」は伝わらない。自己分析を通じ把握した自分の持ち味、企業研究から理解した会社との相性や将来展望を率直に、そして熱意を持って相手に伝える努力をすること。これが面接への対策として一番重要になってくる。

要点6 公務員と民間企業との併願

公務員希望者は、これからの数カ月間が試験勉強の追い込みとなる。効果的な学習計画を立て、集中して取り組んでほしい。しかし、これから試験勉強を始めようとしている学生は、もう一度の進路について考えてみる必要がある。短期集中で成果が出ないこともないが、低学年から準備を進めている学生との差を埋める事は、並大抵の努力ではないことを肝に銘じてもらいたい。また、併願を考えている学生は、スケジュールリングに細心の注意が必要となる。2月から6月までの間に公務員の試験勉強、企業の情報収集、セミナーへの参加、採用試験の受験などが同時進行することになるので、肉体的にも精神的にもハードなスケジュールになる。中途半端な取り組みをしてしまうと、結局どちらもよい結果は得られないということにもなりかねない。併願は、単純に2倍以上の努力をしなければならぬし、その努力を継続する強い覚悟が必要となる。

※最後に

今後就職活動を進める中で、なかなか結果が得られず、壁にぶつかることもあると思う。でも、決してあきらめないでほしい。志を持って、活動が続ければ、必ず就職は実現します。就職課は、学生一人ひとりを最後までバックアップしていきます。悩んだり困ったりしたときは、自分ひとりで悩み、解決しようとせず、ぜひ就職課へ相談に来てください。

[2月8日/ニュース専修10面]